

素材の大口需要者状況 (宮古・下閉伊地域木材安定需給連絡会議を開催)

当管内(岩泉管内も含む)では、素材供給業者、木材加工業者、木材需要者等が構成員となり、お互いの動向や情報を共有することで地域の木材が有効に利用できないか模索するため、H19年に標記会議を設置し、年3回の連絡会議を開催することとしています。

今回は、素材・製品等の需給動向について、会員相互から意見・情報提供のあった第2回開催の会議内容等について紹介します。

最近の木材需要の動向としてはやはり、住宅着工数の減少(関東方面ではマンションでのOSB製品の導入率上昇)や外材製品の価格低下などにより、大口需要者である集成材工場や合板工場においては、減産傾向が今後も続く見通しとのことです。

管内の合板工場に至っては現状の3割減産から更に厳しくなる状況にあり、今回参加した素材業者からは、合板工場での月4日の受入れ制限を緩和し、月10日に増やしてほしい旨の申し入れがありました。当面現状のままでということに折り合いつかず。

ただ、合板工場では国産材の利用比率は約7割と高まっており、地域材の利用割合をみても前年と比べると多くなっているようです。



国産材の利用量をUPさせるため、国庫補助で導入したジェットドライヤー(合板工場))

本会の成果か否か、合板と森組とで素材需給の独自ルートができ、ウツェィかわいでは全体量に占める地域材利用量が高くなってきている状況にあります。

木材の需給調整はこれまでも、これからも重要な課題ですが、それぞれの経営状況、それぞれが求めていることなど、情報を共有することで少しでも打開策が見えるよう今後も地道に取り組むこととしています。